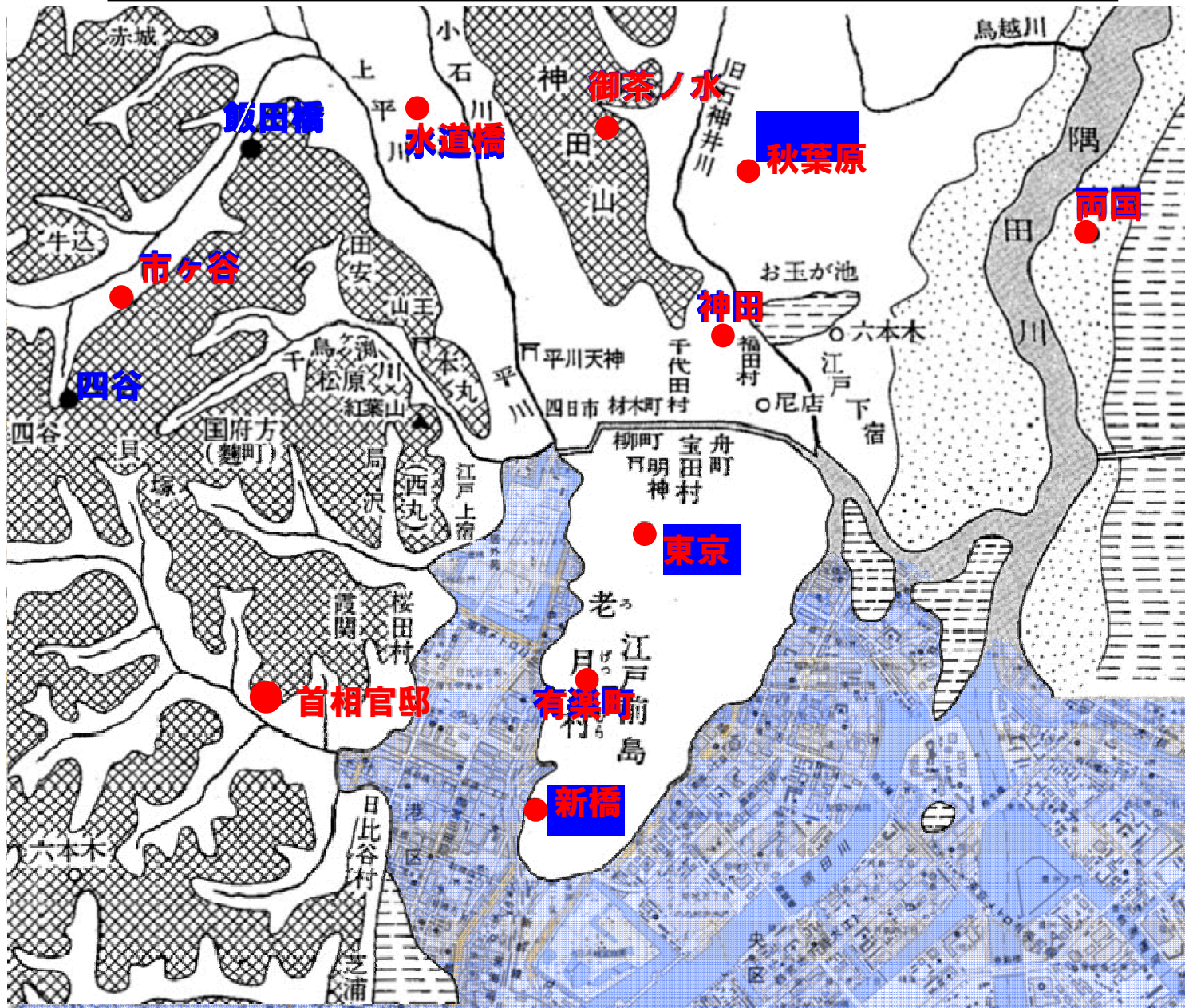


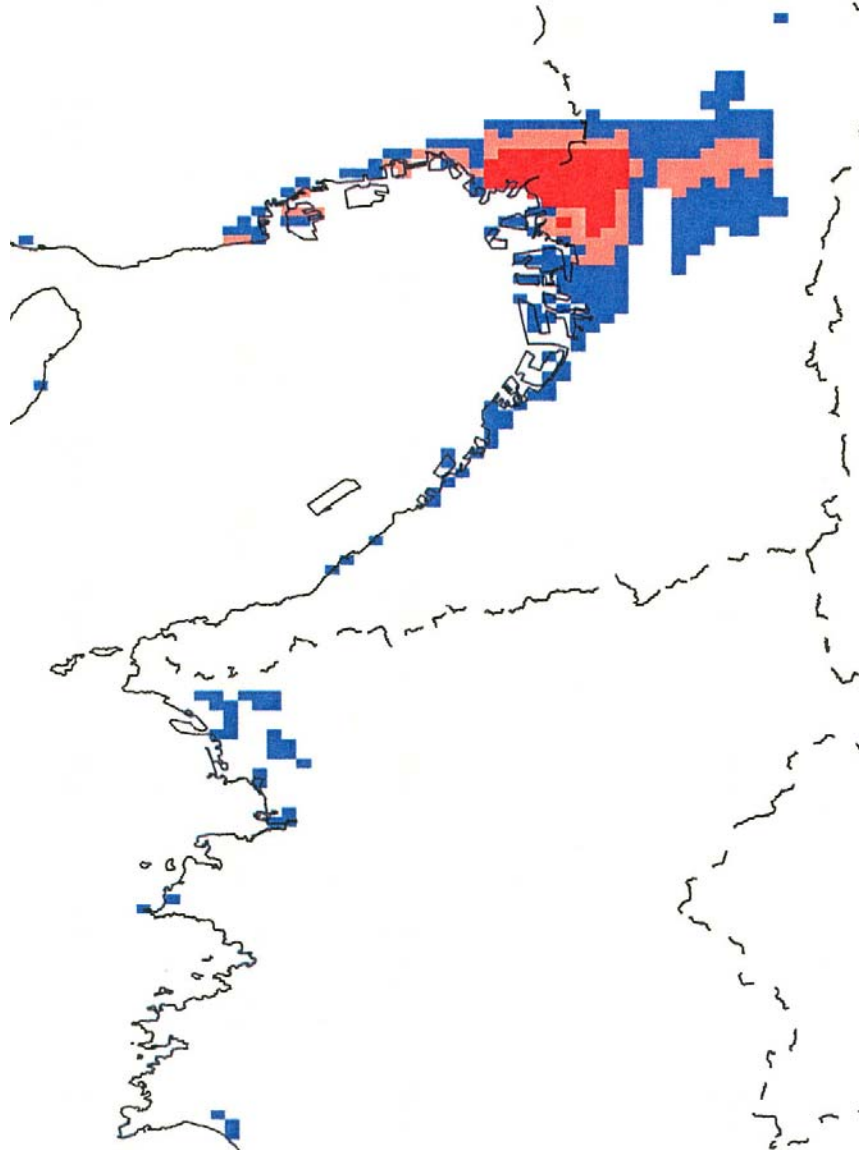
1590年頃の江戸



大阪湾(芦屋市～大阪市)

面積 124km²

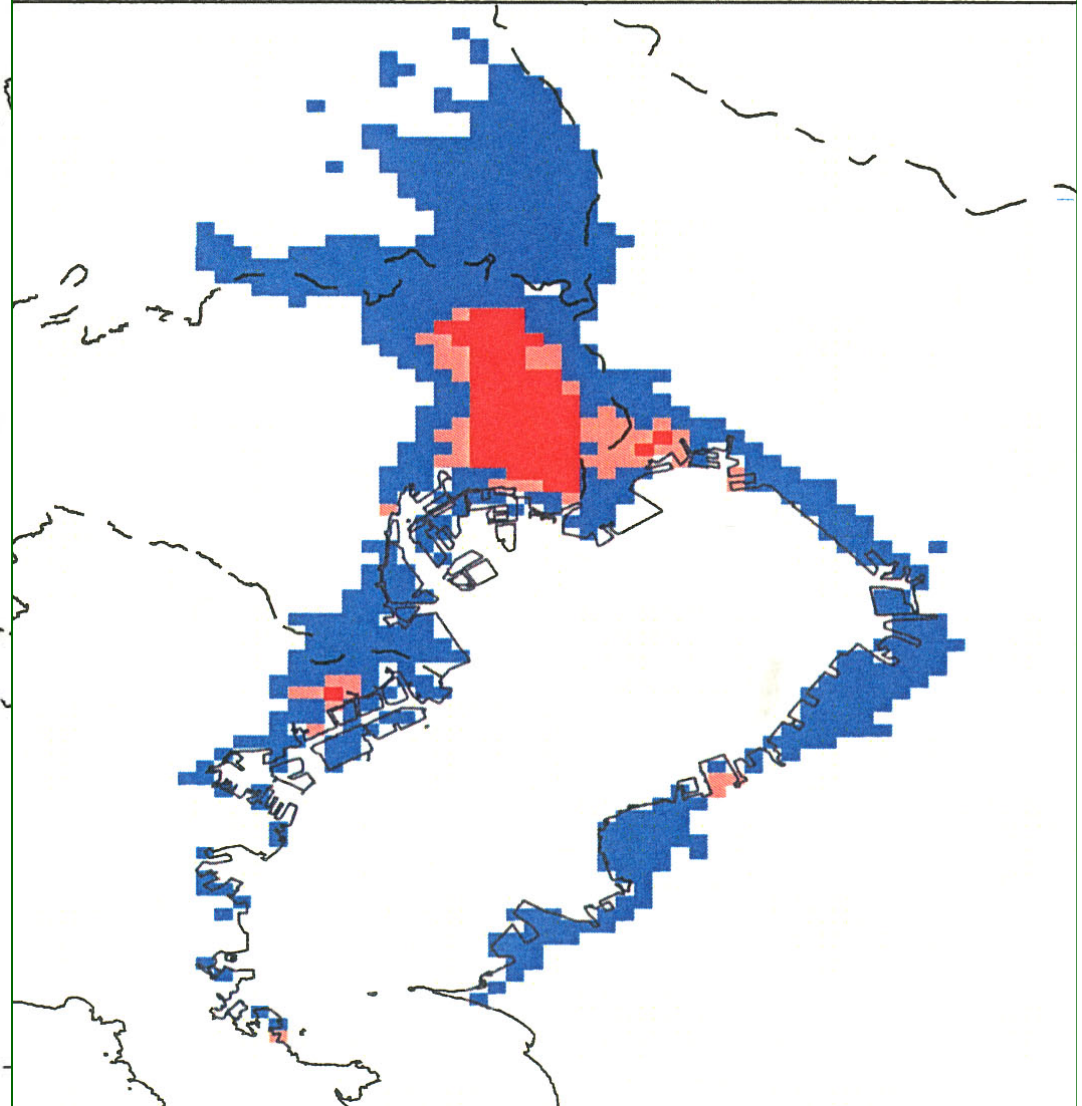
人口 138万人



東京湾(横浜市～千葉市)

面積 116km²

人口 176万人



首都圏にとっての ハリケーン・カトリーナの教訓

1. 最悪シナリオの重要性, そして対策に結びつける.

抜本的解決策:防災

当面の被害軽減:減災

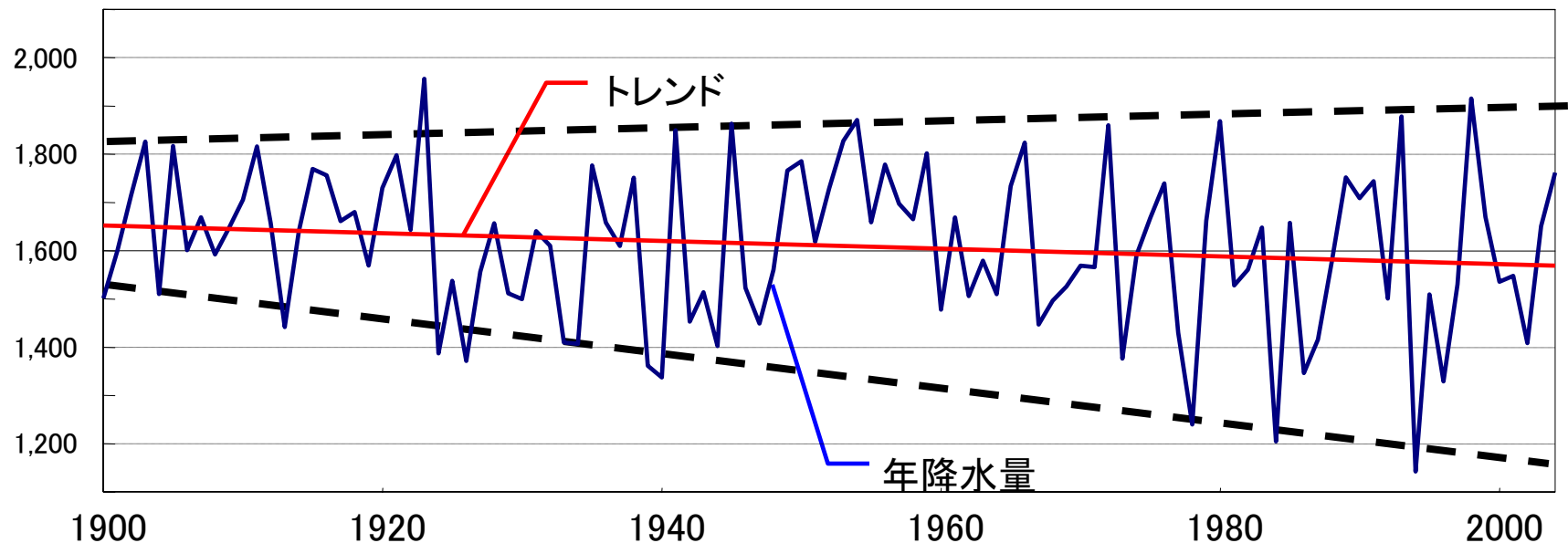
2. ゼロメートル地帯の長期湛水を防ぐ.

堤防の仮締切用のブロックの備蓄(東扇
島などの広域防災拠点を活用)

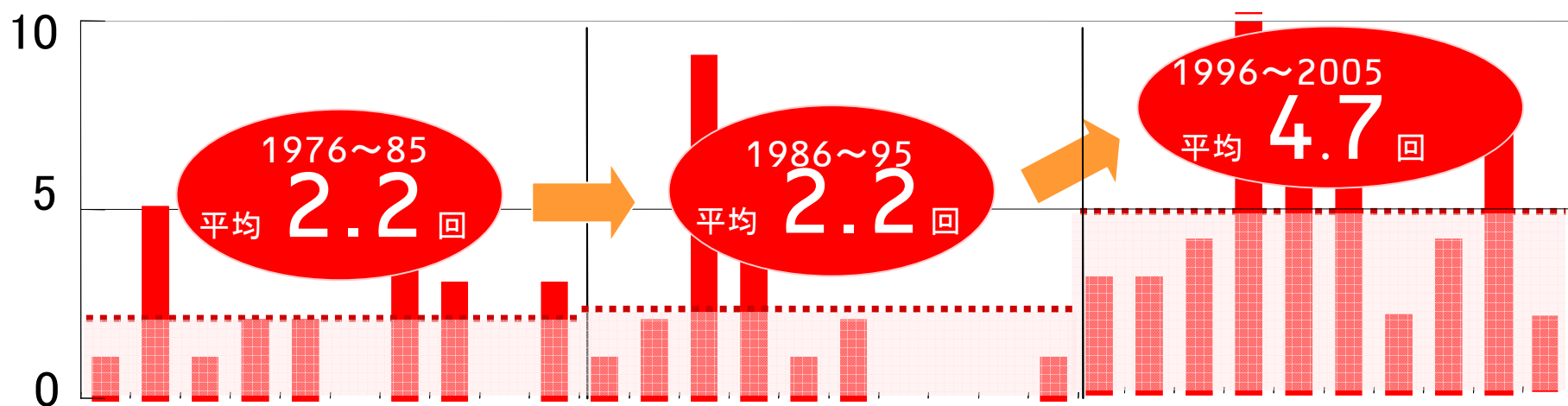
3. 広域対応を可能とする危機管理体制を作る.

東京各区の災害対応の独立性の向上とICSの導
入, 住宅再建に対する政府の直接関与

長期的に見ると少雨と多雨の変動幅が増大



1時間100mm以上の集中豪雨が増加（約1,300地点で観測）



地震と洪水の対応比較

事象名	首都直下地震災害	利根川・荒川水害
近年の被災 (死者数)	1855年(約1万人) 1894年(31人)	1947年(1100人)
中央防災会議	専門調査会 (2003～2005)	
地震対策大綱 (中防決定)	2005年9月	
地震防災戦略 (中防決定)	2006年4月	
被害想定	11,000人(死者) 112兆円(経済被害)	

検討すべき項目

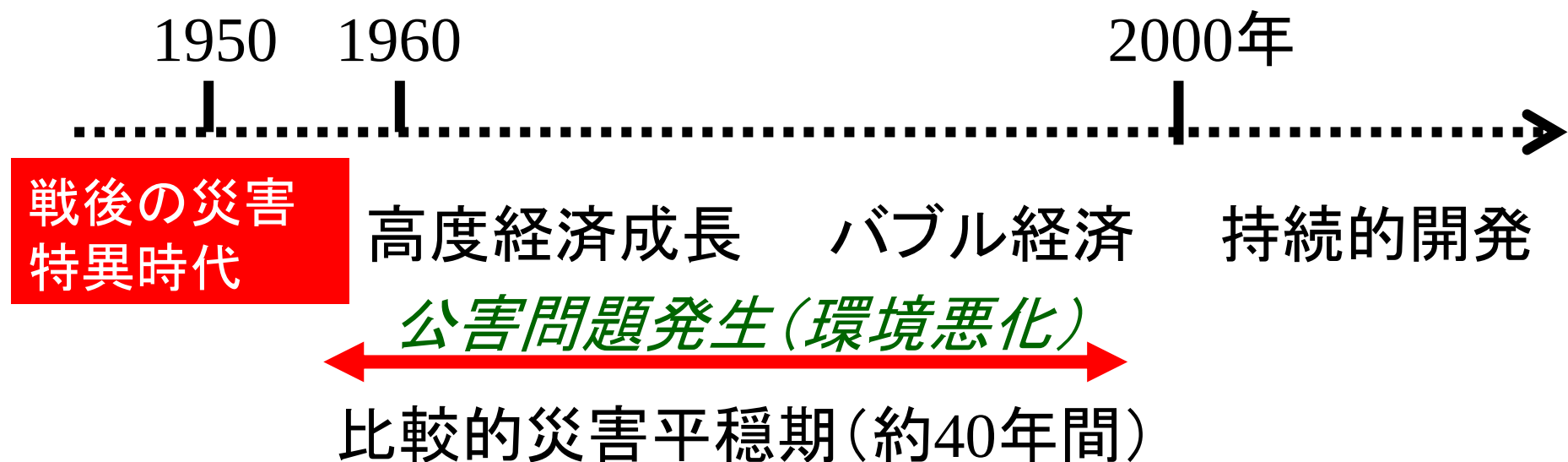
1. 被害像の想定

2. 警戒時の各機関の体制・行動

3. 応急・救援体制

4. 緊急的な復旧・復興対策

5. 事前の備え



国土の災害脆弱化が進行

都市化・過密化——1995年阪神・淡路大震災

過疎化・高齢化——2004年新潟県中越地震

日本の失敗を理解する

.....

何が都市・中山間地域を脆弱にするか

1. 急激な都市化と不適切な土地利用マネジメント(防災力の時間的、地域的不均衡)
2. 過剰な人口と人口密度
3. 自然環境との不調和(水循環の寸断、不浸透舗装、ヒートアイランド現象)

4. 社会インフラや公共サービスへの過度の依存
5. 政治・経済・情報の一極集中

1. 過疎・高齢化の進捗
2. 中山間地域の場合当たりの振興策
3. 地域文化を大事にしない風潮

国土の糖尿病化

災害の危機管理の基本

～被害にあわないために～

- 災害を起こす地震や水害のことを知る
(敵の姿を知る)
- どこが弱いのかを知る (被害を受ける弱いところを知る)
- 災害対策を知る (どのようなことをすればよいかを知る)

なぜ危機管理が難しいのか

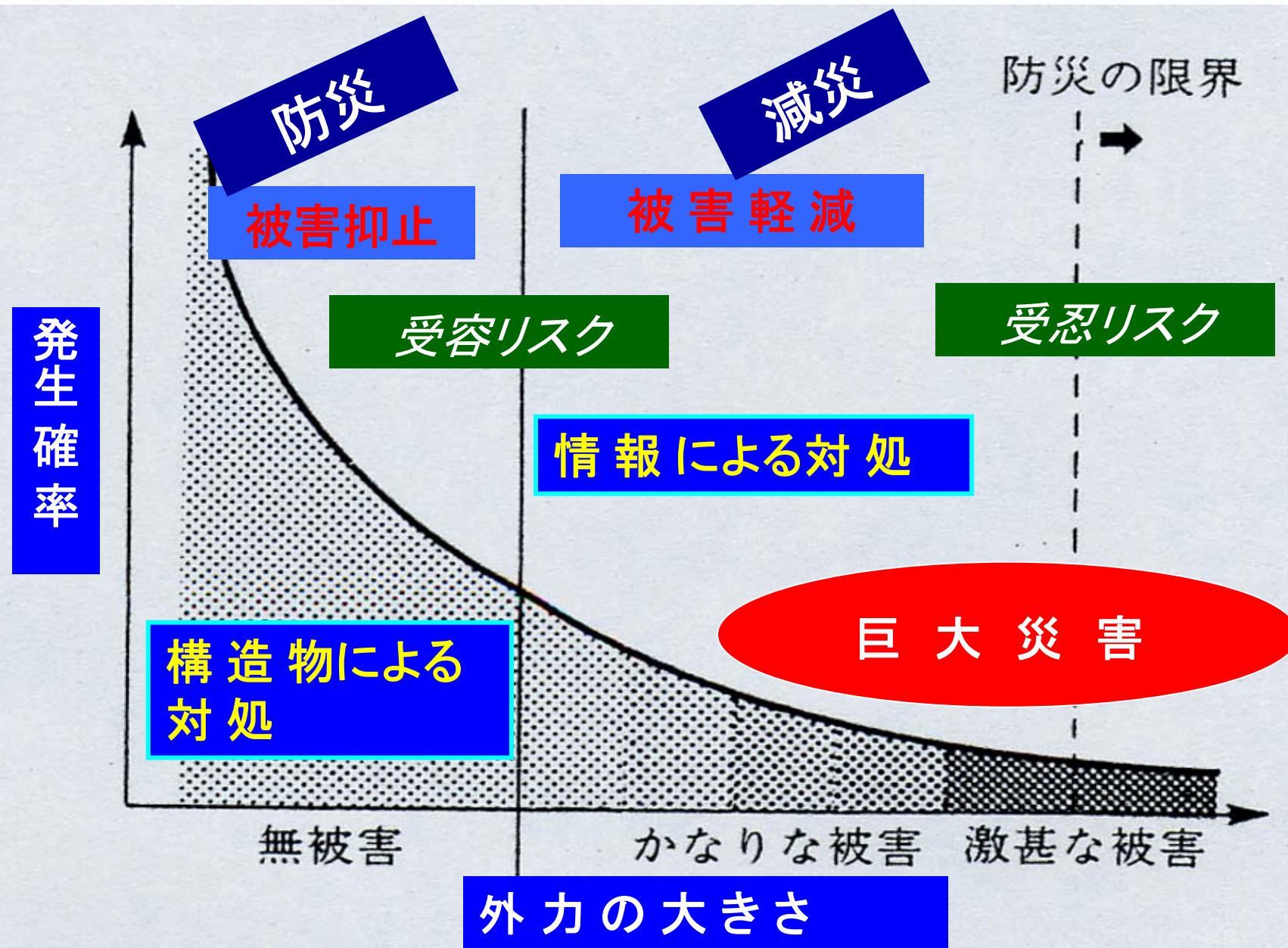
- 事前に予知できない。
 - 咄嗟に判断することの連続
 - 拙速を旨とすることの合意
- 規模が想像を超える。
 - 関係機関間の連携や提携
 - 日頃からの訓練による習熟
- 平時の考え方が通用しない。
 - 集団の利益を重視する有事の掟
 - 責任をとる覚悟で躊躇せずに実行する。

効果的な危機管理とは

- 組織的な手続きと体制を必要とする.
 - 決して個人プレーでは切り抜けられない
- 危機の発生する前に正しい危機管理計画を準備する.
 - 伝統的なリスク分析に依存してはならない.
- 実戦的訓練を常時行う.

減災戦略

最近の災害の特徴は、広域、複合、長期化であり、被害をゼロにできない。そのときは被害を最小化することを目指す。



リスクマネジメントにおける被害抑止と被害軽減の関係

防災・減災の戦略

- 「災害は起きる」ことを前提に，被害が起きないようにする，もしくは被害を最小限に抑える.
----過去に起こった災害から学ぶ
- 災害対応の戦略を継続的なものにするには，
 - 災害の教訓を他の地域や次の世代の人に話す.
 - 中小規模の災害の教訓を学ぶ.
 - 将来を予測して備える.

防災・減災の主役は誰か

- 従来はエンジニアと考えられていたが、阪神・淡路大震災以降「市民」であることがわかった。
- 米国では専門家であると考えられていたが、WTC同時多発テロ以降、「市民」であることがわかった。
 - エンジニアや専門家の役割は復旧・復興に向けた市民の活動を支え、支援すること

最悪被災シナリオの重要性

- 政府, 自治体, 企業と災害との距離を短くする. つまり他人事でなくなる.
- 具体的な災害像をもつことができる. つまり, イマジネーションが豊かになる.
- 事前の災害予防と直後からの応急対応, 復旧・復興のいずれにも貢献できる.

現在の被害想定の問題点

- 住民被災、古典的被災形態に固定した作業である.
- 従って、最悪被災シナリオが見えない.
- そのため、被害軽減の戦略が立てられない.
- 何が被害拡大の要因かが見えない.
- 外力の大きさが被害を一義的に決めるのではないことがわかっていない.
- 大都市の何が災害脆弱なのかという議論を避けている.